

橋のメンテナンスに 利用者を巻き込むには

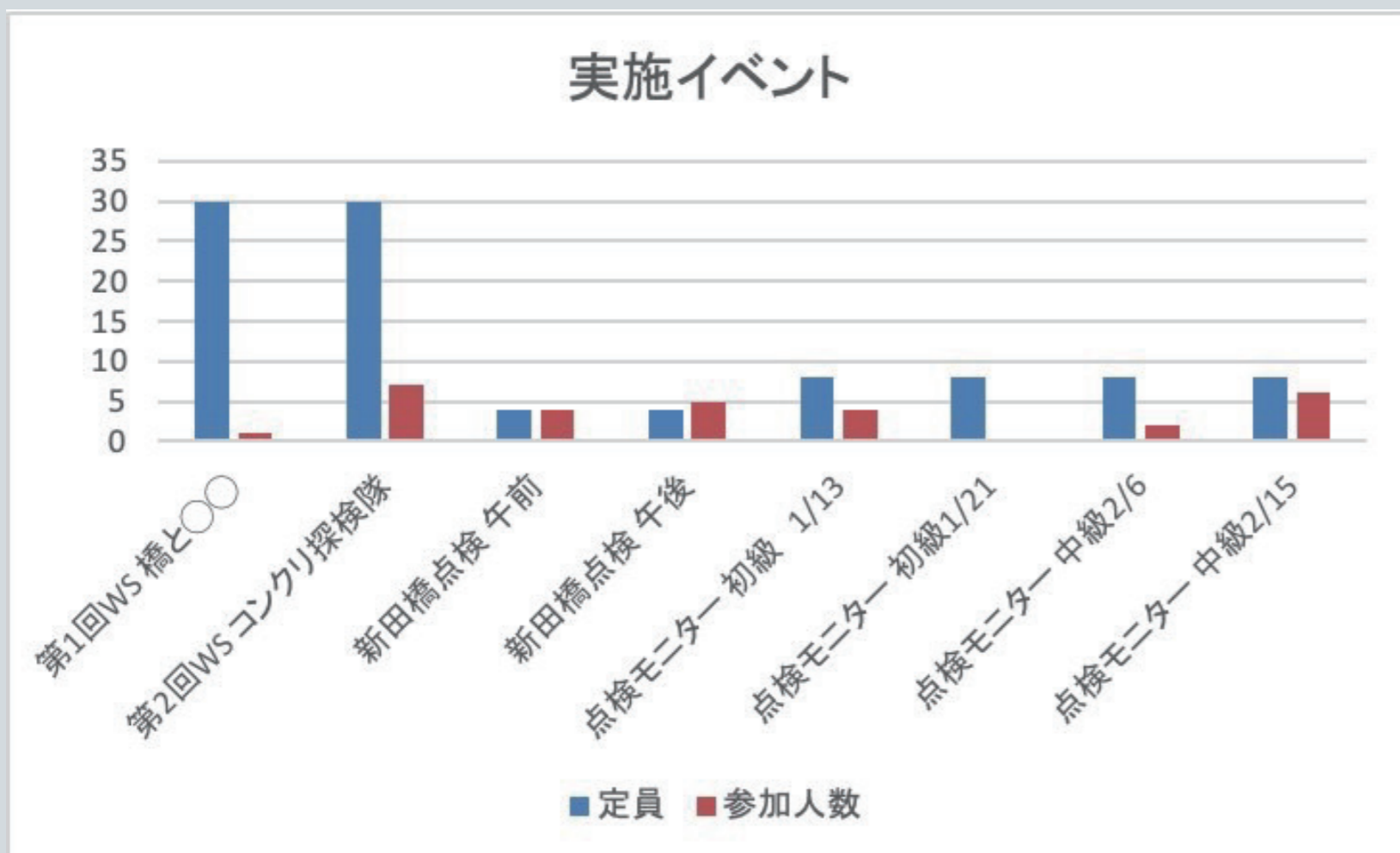
- 地域に愛される橋 -

背景

橋の必要性を再認識してほしい

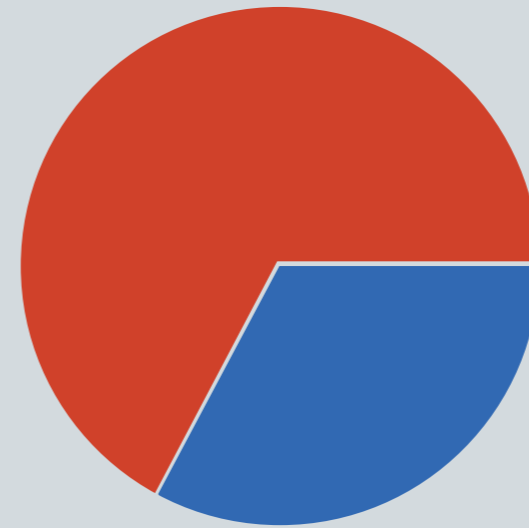
現状では、グラフを見てもう通り、橋に対する関心はとて低く、「橋はあって当たり前」という感覚が強いです。また、イベントを開いても参加率が低いという課題があります。さらに、過去に行った橋についてのイベントの参加率があまり良くない、チラシを区民センターや図書館などの公共施設に設置だけでは視覚に入りにくい。応募方法も電話だとハードルが高い。一般の人が点検できる限度がある、という問題も浮上します。

今問題となっていることは橋の老朽化に加え大田区の158橋という数の多さに伴うメンテナンス不足が発生し、小さなヒビの見落としなどから腐食や剥離が発生し修復が困難になり利用できなくなるという問題が発生する可能性が考えられ、利用者には橋の重要性を改めて認識して欲しいと考えています

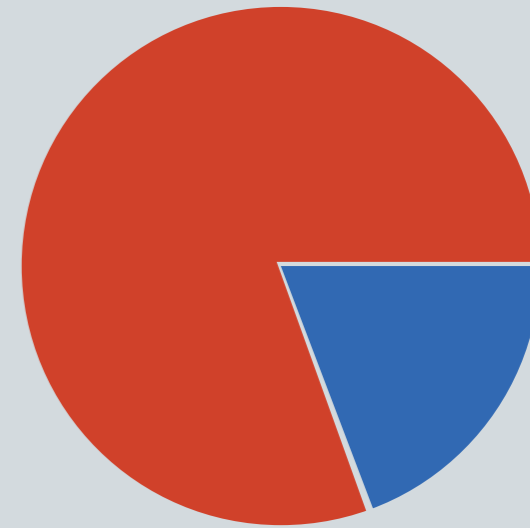


調査 アンケートの実施

橋への関心度



橋の点検への興味



東京工科大学一年生を対象に119件の回答

現状では、グラフを見てもう通り、橋に対する関心はとて低く、「橋はあって当たり前」という感覚が強いです。また、イベントを開いても参加率が低いという課題がある。

また橋に持つイメージとしては「交通や生活に不可欠なもの」「景色を楽しめる存在」といったポジティブな意見もある一方で、「古い」「錆びている」「壊れそう」などネガティブな印象や、「特に何も思わない」という無関心も多く見られました。

興味関心

ただし一方で、点検に興味を持つ理由も明らかになりました。例えば、安全性への不安からの関心、点検方法や技術に対する好奇心、橋の構造そのものへの興味

つまり、安全を守る大切さと、点検の裏側を知るワクワク感を両方伝えれば、参加につながると考えます。

最終提案



住民が集めた写真を行政に送信できるアプリです、スマートフォンの利用率高く写真を撮って共有することに抵抗がない、慣れている10-40代に向けて考えています。

実際に撮った橋の写真をアップロードすることでポイントや称号がもらえることで橋への興味関心につながるのではないかと考えた、また集めたポイントで地域の商店街で使える引換券などと交換できる仕組みがあればより主婦層や一人暮らしの若者に刺さると考えました。

アプリ提案を通して生まれる価値

- 1、点検コスト、リスクの低減
- 2、住民の点検に対する意欲向上
- 3、地域内経済の循環

1、点検コスト、リスクの低減

アプリの導入後日常的に情報が集まるリアルタイム点検が実現し、早期発見による補修コスト削減や重大事故の未然防止、職員の巡回負担の削減が考えられ

2、住民の点検に対する意欲向上

- ①ただ歩くだけ
 - ②写真を撮るだけ
 - ③送信するだけ
- の行為が地域を支える情報になり、ポイントを通して地域で使える価値になり市民の「善意」だけに頼らず、行動が正当に評価される仕組みを作れます。

3、地域内経済の循環

ポイントの使い道を商店街の商品券にすることで
 ・来店動機のそうしゅつ
 ・若年層の流入
 ・地域活性化
 から商店街活性化のきっかけにもつながると考えた。

- 1 小さなヒビを地域住民に認識させる
- 2 橋のヒビの写真を撮る
- 3 大田区役所に写真と共に報告
- 4 橋の傷の認識が広がる

傷を写真に収めることが
橋のメンテナンスの一步となる